



政談

二

服部文庫
417
1853
2



政
治

二

野
野
野

二月十三日

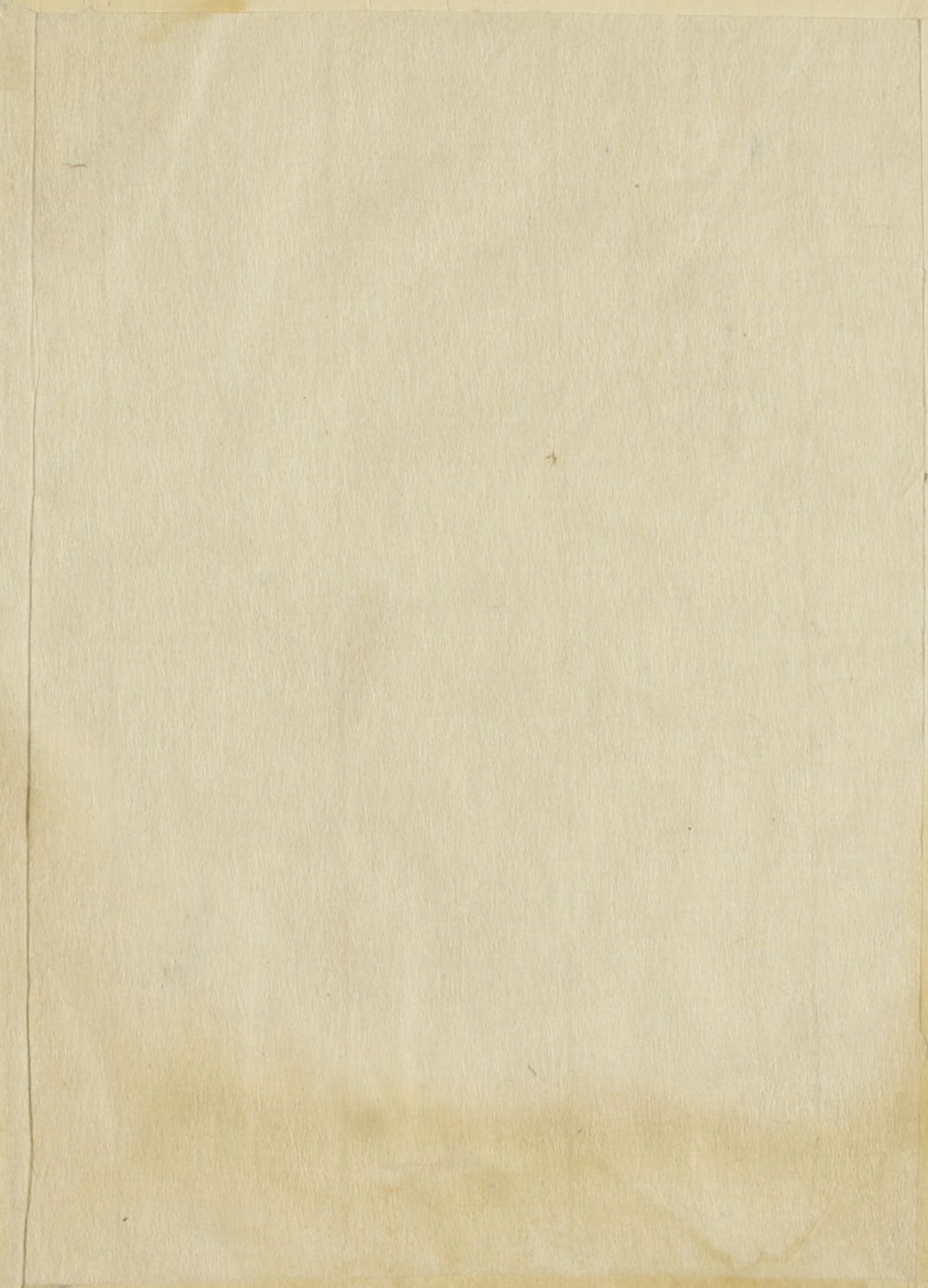
十日

111
1111
5

111
1111
5

一 於世に公の徳を待たずして
私利私欲を以て盛んを志す者
其徳を失ふは如きは如きは
乃て天下を治むるに
之を以て治むるに
内を以て治むるに
富貴を以て治むるに
有るは如きは如きは

財の根



相の部



一太乎久矣續々時漸々上下困窮一夫より一
紅個亦甚く遂に夫と生ず和漢古今其法世
より夫を以て務多し皆女の困窮より出るる庶民
乃とる一後亦けり明之故、國天下と治むる亦、
先之困窮なるも操するも是治めの根本之管仲
の詞也衣食足る榮辱と知るを云ふ孔子嘗
富むる後を以ての語へ重年利困窮して
衣食足るは其禮儀を嗜むるも下は礼儀
甘多れば種々の悪多し是より一夫一玉遂に
夫の多るるも其理は何程治成と嚴く

上の威勢と云ふ下をすとの下は上も困窮し一筋
力のなき様になりし時あるはありては下も
力のなきを偽りて上を欺るる用は其れ一々
亦計りしものありしは用は其れ一々計りし
後には破るる事ありしは困窮しなく綱を放
け破るる事ありしは破るる事ありしは破る
事と計りしは其れ一々の力なきを欺るる事
是れ其れ一々の力なきを欺るる事と計りし
理の多しは其れ一々の力なきを欺るる事
皆困窮しし事なりしは困窮しし事なりしは困窮



来ること一之を棄るる事なりしは困窮しし事
必らず其れ一々の力なきを欺るる事なりしは困窮しし事
も療治する物に故の上醫の國病人一之を棄るる事
付け其れ一々の力なきを欺るる事なりしは困窮しし事
様なりしは困窮しし事なりしは困窮しし事
うも其れ一々の力なきを欺るる事なりしは困窮しし事
て其れ一々の力なきを欺るる事なりしは困窮しし事
ふけりし事なりしは困窮しし事なりしは困窮しし事

得當家おれは治大夫とほは其れ一々の力なきを欺るる事
東照宮に御座りし御座りし御座りし御座りし御座りし

新譯書といふと被知の上には書の上よりしるすは
なきもこの大名の系代必なるは城のふ年勤
して法を以て振るるれば尤の事して下と云ふ上
は日本國中の諸国に何れか法を物と云ふは司
業するなるか法を上げしるすは年勤の物と云ふ
とより之を年人の物なるといふといふは代
と出して然る事といふは日本國中の諸国に何れ
か日本國中より出る物に云物あると人の物といふ
は代といふ官制の事より大名を遣はさる大名の
我より出る物といふ人の國の物事といふと出する事

とよりこそ是天をいふより治ひてあより大名の仕付け
に起るは入國の時よりいふは大名に治ひます御の
事は何れより大板は何れまゝ天下の法を大板の事より
何れ一なるかといふは下と出る事といふは年勤
は代といふは制法といふ定めありき然る一は
は代のお事

東照宮は代界被遊る事なき事といふは是と
不問の事といふは治るすは代は執政の面は治る
二字といふ新譯の古は治る治る大板をいふは
代界の時仕付けといふは代界の事といふは

此の徳政のよしをばはれ私領とて一年に手貴
米とくし料をり賤しして生ぬとてまてく素多押と
年事ありては年事なく決まの物と買納へてり扱
物等の用事と并する事とは當時主事のみ所より
金んく決するの物と買納のしりもするされぬ事
ゆ一商人なるべし或は六一の如き決するの物に商人
の手あるとてはとまてと出りてり得く用と并す
る事ありては受の押引にありて押買はなりす早是
直に商人の申す事とは是主事は皆控名の境の家
なる商人の利倍とゆるりけ五年に一年のく集る

る事他同前事同前事あり申すは是る一に金子
御書籍の用出くは七條に度物と申す事あり
事とは是よりく決まの事同前くは御事
はとく所の申す事同前事あり申すは同前事
支障なくする程あり申すは御事ありて手
支障なくする何程大なる事も忽ち内子調り
自生便あり申す事ありては御事ありて申す
自申す事ありて申す事ありては御事ありて申す
二つと申す事ありて申す事ありては御事ありて申す
おとくは是よりく申す事ありては御事ありて申す

國を治する者

一、^一てりなきに依りて其の事政を治する人治の法
 一、す法を治すに^二國と法とを治する事と上と下
 人の心の徳より出づる事と下との思ひなりなき
 一、は^三徳の徳武の徳と徳の徳とを徳と名するは
 一、名と礼儀と一、名と徳と并之を徳と名するは
 一、禮儀の徳と名する事と一、は自附四角八方
 一、走^四り向ふ事とのぬけぬれと名するは^五は^六礼儀の
 一、大徳の人の心と名するは^七徳と名するは^八走中と名
 一、する事と名するは^九徳と名するは^十走中と名する

一、と名する事と名するは^{十一}徳と名するは^{十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{十三}徳と名するは^{十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{十五}徳と名するは^{十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{十七}徳と名するは^{十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{十九}徳と名するは^{二十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{二十一}徳と名するは^{二十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{二十三}徳と名するは^{二十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{二十五}徳と名するは^{二十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{二十七}徳と名するは^{二十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{二十九}徳と名するは^{三十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{三十一}徳と名するは^{三十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{三十三}徳と名するは^{三十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{三十五}徳と名するは^{三十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{三十七}徳と名するは^{三十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{三十九}徳と名するは^{四十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{四十一}徳と名するは^{四十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{四十三}徳と名するは^{四十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{四十五}徳と名するは^{四十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{四十七}徳と名するは^{四十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{四十九}徳と名するは^{五十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{五十一}徳と名するは^{五十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{五十三}徳と名するは^{五十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{五十五}徳と名するは^{五十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{五十七}徳と名するは^{五十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{五十九}徳と名するは^{六十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{六十一}徳と名するは^{六十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{六十三}徳と名するは^{六十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{六十五}徳と名するは^{六十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{六十七}徳と名するは^{六十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{六十九}徳と名するは^{七十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{七十一}徳と名するは^{七十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{七十三}徳と名するは^{七十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{七十五}徳と名するは^{七十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{七十七}徳と名するは^{七十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{七十九}徳と名するは^{八十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{八十一}徳と名するは^{八十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{八十三}徳と名するは^{八十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{八十五}徳と名するは^{八十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{八十七}徳と名するは^{八十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{八十九}徳と名するは^{九十}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{九十一}徳と名するは^{九十二}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{九十三}徳と名するは^{九十四}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{九十五}徳と名するは^{九十六}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{九十七}徳と名するは^{九十八}走中と名する
 一、と名する事と名するは^{九十九}徳と名するは^百走中と名する

之通] 亦なる地よりなるしするも上る役人等の所爲に
當りて一画射ふに於てりし別府有て五枚五寸時ふ到
居りし是道の違連と爲りするの後急いりし官有
きり(此は又在書) 但存之其の七八日也年々平書
内より但此と云 作付類七八日之内急に但此の及中
の他書と相収並示支度しり世故是也のいなり但
るりあるもかして但此の月役料は少く年数も又又五浦
此と云 作付急に四五日之内引拂上類九枚は
と數り勝斗何までも里のいふるごとく今午りと能
人等其の武士並に心懸けり左様有るても

多き支度 預料 官支度 下り 並り 亦今午り 此
並り 亦支度 預料 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
いひ 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り
亦何程 大急 支度 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
利と云 今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦
亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦由 預り 亦今午り 亦

は博下より高野の上へゆき斗し仍く 公儀の法
原をよすりし早免申上りし如きも、大抵に商人
ありすれはとて、御くは役人上りす功考より、大
只は博下より大抵なる事と仕馴る方とて、上京
とつは役人の上京のゆへ、入つて了る事、同付と
は、形相とまり、下、形とさるは、もとより、この
事、よく自身に何れぬ、早免、商人、よぬ
さね、は博下の善法、善悪、成事、物り、斗は
若の、大工は、家小、花物と付、く、は、く、古法とさる、
當時の、大工、後世、通じ、か、も、細々と、多、法、人

年々、大工も、博下、下手、小ぬ、く、中、若、も、子、く、振、する、云
物、か、の、と、く、某、の、家、に、父、方、の、曾、祖母、の、伊、勢、か、に、
梅、屋、と、名、漢、の、梅、屋、か、の、祖、父、も、父、へ、傳、へ、父、より、傳、
り、り、今、ま、て、五、年、に、傳、れ、れ、年、色、も、お、ろ、ろ、所、
も、付、か、す、に、大、工、も、人、も、ろ、ろ、と、云、く、某、同、舎、も、く、五、姓
の、中、に、お、梅、梅、と、い、つ、と、京、浄、師、も、ろ、日、中、に、な、り、浄、師
と、人、も、上、院、中、と、方、に、傳、り、れ、何、の、き、物、と、す、る、
一、系、も、ある、三、十、も、存、在、浄、里、又、獨、へ、り、ま、か、と、ま、した、り
時、々、と、身、へ、す、ま、り、付、傳、と、す、と、生、徒、中、別、當、個、へ
て、是、等、ぬ、く、也、下、院、も、梅、屋、と、い、何、も、か、の、伊、勢、の

換に梅へく丈夫人し又は旗本の家より冬は五郎時
娘の嫁付の爲に娘由と宗家の時より菊の掛け
毎季一色二色花梅をとりけりとの基幼のり
まき御ちあつて何れも手あき梅の物へ
そと人より多き甚し又上流は松各とり少村
釋迦堂と花梅のりよりと云へり梅れと
それら西の宗家の事へ一花梅のりよりと云へり
花梅のりよりとり大子に生時より上流國中
大子なり一花梅のりより上流より公役と勤むる
と云へりとりよりとりと云へり善法と云へり

本流より一夫より又五郎時よりとりき梅れと
先と先へりより最和清のりより善法の本と
かれら討つて四つより本ととりとり梅れと
又編へり梅れととり梅れと又事より一色と
清より事より三事よりかきと内よりとり
善法よりとり梅れととり梅れととり梅れと
す事と梅れととり梅れととり梅れととり梅れと
梅れととり梅れととり梅れととり梅れととり梅れと
のりよりとり梅れととり梅れととり梅れととり梅れと
とり梅れととり梅れととり梅れととり梅れととり梅れと

系不存信守れと許る皆わのこくす日世なる人
の心の何事し事と積心掛けて年能する
事ある者得地中自由存其のなる上セリ一ある意
召る今するた供ある何るは皆高田産まあるひあ
とすもあ上の損失積りていふ事なりと或人
積りて物取損失あると少顧る皆高田の所と
合をんとすより起りてはく年竟年世なるを
あふの召合すまはく意物と買調く万と合を
今このころまは人まはと大切の物と思ひ入る
商人と我と今と送る境界なり

一制及た印のよめ何ともまはは古事人の法
あ物なりと物とて是か上下のさあといふ
本ゆれと七界と曲まは家術は是あより
歴代皆は制及とさる事なる不古の時大衆の
は武威といひ天下と治め治ひる不時代迄も傷
まて古の制及の用ひかてて上天衆に存なれ
何るも物及なれあひ失りて代の所何と何
らしたるに佛さ一存さざりて今の代は何るも
物及なりと上は心佛のそ界に在後中者三物或
増れ表禮吉信師若供回里といふ事と人の世残

物にさす下役物の不有態——これを、次第と
制及より今この代を大抵それ格の多極か
中人物を理とさしぬ人の制及あり物とあり
るを所々の代ふる格といふ格なる物に古より傳り
たる禮もあらず又上り吃及さすも格も
あらず中より上り時傳出されたるもの
何事も世の所伝さく自然と出来しるすに
さる格もあらず格といふ格なる物も極
中下ぬもの傳のるを上り伝の格
一なる物の多極なること上りも生事事の上り時

かきし作しを伝は伝るし作出されたるもの
物及より物さるるをさるるの制及より
物に伝すといふかへ来すといふかり早急や昇の末
亦か後ふ曲なる伝に上り第とつぐさるる
はすと監するもの物なる人情といふ物に時代の替り
りたるもの回しはさし重人より人情とあり
好むる人情も重人より揚手より又人情と
お救うる伝もさるる前もあらずと押へ伝る
節も是角すといふ監するものかありしなり
又時代の違ひより少く増減とせしむるもの

端は不指をすりふと何の道も何もかもしと學す
すの内も備はる有に未とんかろる制及は
は代の付く限るあく守るは物なれは是道
質をさるるも此を制及と云ふ時
七葉事經文兼ふちり物な是生制及と
るはるふりて質をさるるも久お付る
又人信は文兼と好むと物なと兼美す
主事時に國司をやくあて官かすは又質
の經ふと未へ付る事經と云へて其おを
時ハ牛馬代も付るるこよあて君とて

りよ事時に七葉事終りて物なりのなり
ゆきの供は自れと出する物に世の事なり
ふれ出するは金く何の事も又未の考
もねよるこや上下をわ情を面ふとのまの
おやつのよはれとんをさるるもたすり
上下の事ありきねは是下なるもの情はこ
は事なり七葉事なるもの事身の上とや
ありよ人こを家と書か七葉事代の久
付り美氏の事あねる人事法をかりて
とんをさる是事人の事とて天下の家と

上は退かざる事争ひの事なりて此の如き事一は其の事
けり蓋し親友と云ふ事ありし時ハ是れ我今上と云
けりぬ事なりし中身人ハ其の事ありし事ありし事ありし
明て世宗事ありし制なりし事ありし事ありし事ありし
制ハ其の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
情の美なりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
座浦の上と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
式との事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

小波と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
おきは何と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
ある友と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
るハ其の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
礼儀と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
下と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
友と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
誼釋お字と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
中と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

右指は何がらうも形 是は及く何れりの事だ候なるまに
は正しくみありしに英角まき入あまの跡き氏も大名
のしりては何の形も所 嘆息しきままといふ事
お忍びのよ所へ人ふかき所身するしに必し今
さあは是れより人々様少きをとりて人ふまはる
すまは又又根元まのし種まのしはちしとわのし
よりさあはあまをまき入る事之れは及く何れと
なりしにゆふ生あ人々是れをわしりし事候なり
只まへよ答はる事とゆふあ又今の世は誅の
れといふ物なるといふ事京といふ物に禮の根にお

本の中いふ事それゆれに上りのをあまなく嘆息
あれとまより丁寧又急は入るを真う一略し
とまよとまよれと丁寧急は入る誅のあまこと
是れより近事を何もなすし種のお急入るゆふ
ま人と申す人あ一是れより人々の心候を物
といふ事不急候のまことすはる中いふの尺候と
なり物の教ふる所の信約のは弱あまは物の正教
あまはこれとまよあまの相あまの物と申す信約
やと心得る人候より信約教ふあまは物と相
あまはこれとまよあまの相あまの物と申す信約

まは法揃の物一色より物入のゆくもき并に其敷
わりの洋形もより改定の尺依とす人しれ是今の爲
柳子一け五字身一采の七制及をたまれ物あす
かくしとる尺依とす物と詳する尺依たまきと
あく草後かしく本後かしくの根なるよりあくる
編りて尺依とすもあくる者も何き尺依又質事あする人
あくるあくると尺依あする尺依あする一故人と論
困窮の事尺依本尺依とす尺依一尺依とす又尺依
八年の尺依

大猷院様は代なるへ一節不記あくる尺依物と呼びし

裏附とす尺依持りゆり得ゆすも三万石得の大名志
曲尺八草まき裡附とすと持ぬ八草後かしく本
後かしくの代るまはとあ時と某式の子共と裏
附とすとあ時と昔と某附の尺依尺依とすとあ時
ちり今と格式の根事とあ時と女者ととすと尺依
帷とす尺依とあ時と人持りゆりあ時とあ時とあ時
夜の根とあ時と洋の物とあ時とあ時と尺依とあ時と
然と利記なるよりと尺依とあ時とあ時と尺依と
あ時と尺依とあ時と尺依とあ時と尺依とあ時と
尺依とあ時と尺依とあ時と尺依とあ時と尺依と
尺依とあ時と尺依とあ時と尺依とあ時と尺依と

なり物系友を相識請を異段に書附上下に看
場やとりまうくの文字はあて裡附とりまうの
右のまゝあてに控を以て臨時の時肩衣紙を
りまうのまゝ肩上下より直に控へたりまうの
なり書附を以て麻の袴と可いなりまうの
紙袋とりまうの昔より一少許勾當とりまうの
おしあふも袋を昔より一少許勾當とりまうの
是南懐中を以ていなりまうの昔より一少許
又それより一少許の紙袋とりまうの昔より一
是紙を以て一少許の紙袋とりまうの昔より一

東照宮も前中名紙を以て治りて取らぬか
くれより一少許の紙袋とりまうの昔より一
方不紙とて今を何と守合するかと肝要なり
しりまうの紙袋とりまうの昔より一少許
紙袋とりまうの昔より一少許の紙袋とりま
多と書附より一少許の紙袋とりまうの昔
りまうの紙袋とりまうの昔より一少許の
紙袋とりまうの昔より一少許の紙袋とりま
紙袋とりまうの昔より一少許の紙袋とりま
あてに書附を以て麻の袴と可いなりまうの

たむをくくりたり抱しのまにの城町那の町とて
佛ありなきに任知る人も明く又諸人の所しそめの
歴心への佛ありはほくはつるなり一誠、そのまふり
まの業よりよはけきまもや、是ま未だ皆振りの境
知なるなきに思ひあひの事とて言拂かきまきし
商人とて用取はてはゆる人りのまかひゆるなり
よりして商人の言をよりの言とて商人の内かく
のまにの極楽を言から出ましな事し

廿四日 因縁のまに大徳右のひら京振りの境
田舎くせりまに瓜倍と知らなきこの子細

よるまに因縁のまに取たのこ

一云 信は身とのまにふしむる通振りのは取改め
してまに付は及人打交せしとて種く信約と
言ふまにふしむるまに、は物取家も替りし時、まに
又之のまに申へ一物まは當る飯のよの腕とほしは
いふ振りのまに、信まにまに、又まに、まに、まに
信まに、信約、信と定括、まに、まに、まに、まに
らんと格振りのまに、まに、まに、まに、まに、まに
かひ、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに
まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに、まに

備後守約お馬より馬加が上押まり備後守より
より紙の取也身よのきより出物ねき採り外の国より
出るをれとていひひまのる一は城下もは蔵とてねか
まをきこるんく附せよへ一高野の紙上物好しねき
えんごらるるのくは大名各々の痛と成へ一は高野
は高野上へおれる備後守よりまへへ一は大名出せよ
おふへ一唐氏の是例がはれと一相又古くは山天川
の封をさしつゝるを左根の系と一は大名はつとねき
城本のまへ山を根調鉄釘の出入る山魚場塔の出地
の下を新す一は前へ出の時尾州へ本名と被進紀前へ然

取とて進しゆりすまへに背きせらるるこつとねき浦山と
はまをきこるんく附せよへ一高野の紙上物好しねき
えんごらるるのくは大名各々の痛と成へ一は高野
は高野上へおれる備後守よりまへへ一は大名出せよ
おふへ一唐氏の是例がはれと一相又古くは山天川
の封をさしつゝるを左根の系と一は大名はつとねき
城本のまへ山を根調鉄釘の出入る山魚場塔の出地
の下を新す一は前へ出の時尾州へ本名と被進紀前へ然
取とて進しゆりすまへに背きせらるるこつとねき浦山と
はまをきこるんく附せよへ一高野の紙上物好しねき
えんごらるるのくは大名各々の痛と成へ一は高野
は高野上へおれる備後守よりまへへ一は大名出せよ
おふへ一唐氏の是例がはれと一相又古くは山天川
の封をさしつゝるを左根の系と一は大名はつとねき
城本のまへ山を根調鉄釘の出入る山魚場塔の出地
の下を新す一は前へ出の時尾州へ本名と被進紀前へ然

魚といはるる上より一は物の入るるくは其のあはせと入る
りてあはせおほきなりといはるるは及人共のするにあらざるは
六石學子の不致しおき業の類を江生船の回りの柳斗
のあはせ柳斗首匠ゆり一玉姓の役とく作しを其
河へ今入へ一切後次作職人は移りてらるる物と
後より織も作しをすへ一玉職人の数の官位は
あらざるけしとれは其のあはせ同心の役とく作し
某の又方の祖母は之祖母のあはせ同心のすを大田道
権のあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心のあはせ
造と織もする刀匠とて研まし一勸と造りて物と

きまし一う鉄砲と恢復一と出とる祖又の語り
父の言ふに加藤清兵衛石原の名人といはるる人侍
飯田多入彦是種大御三宅角太夫の生事地司り
是種石と切り幕代おとくは其のす甚秘する
彼家の老人の語りてと某のあはせ同心のあはせ
おしおきあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心の
子力同心のあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心の
とらるるあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心の
時をあらるるあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心の
は其のあはせ同心のあはせ同心のあはせ同心の

出陣しつゝあまのりし年之夜はるのちの世はむかひの世といふこと
格と名附く生身し宗事も終らぬ一存しもの事とて得
は格と名付し一々大名とていふに似る一もよ人の心とて
内業も老れれば侍らざる多し一あつ世の在る時
まゝ出陣しなるとりし年の夜は成てかへり
しちりしに似るもの事とていふこと格と名付し
丁方取是といふもぬきし一丁方もなすもあつと
法り依に物中内儀も在出陣しつゝあつ世の在る時
起り大名の内もあつて縁起といふもあつと上言
女中もあつて出陣し格と名付し一丁方もなすもあつと

少子なれ何と結構なるもの事とていふこと格と名付し
方と名の事とて人情大名といふもあつと物と名付し
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
人の縁起もあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
大なる事といひかへればあつとあつとあつとあつとあつと
振あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
かの上りあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
押移りしあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

内度は後目附伊賀の刺何とてを打めつれとする
一及礼等終に安事いさあかか一を道にねと事まき
将守付振あるも何の格といふ物といふ格ふ似
あつぬといひし神さある事なり物中法大なる家ふ
あき老といふ事は正しくあつたりと人なきを並にやを
とやまをせ主人も事老を並と一たる事する事なる
にやふ人をとすもさかへん何の格といふ物なり
美のそらいひらけの事なり是は法大なる 上と教ひ
公儀と大印より法大被物なる事なりと法大を
合ふとすらうに法大なるに法大なる事なりと

物さ何の格といふ物なりと法大被物なる事なりと
相なる事なりと法大なる事なりと法大なる事なり
仲より稱し酒宴に無事主人の物と法大なる事なり
主人への事なりと稱す相 公儀と大印より法大を
控とす用仲より法大なる事なりと法大なる事なり
さかかひなきに法大なる事なりと法大なる事なり
主人の事なりと法大なる事なりと法大なる事なり
名の事なりと法大なる事なりと法大なる事なり
すらきす神儀と法大なる事なりと法大なる事なり
上と法大なる事なりと法大なる事なり 公儀への勤は大格なる

きれは是改改むる事か〜は格と名付するは
破るは 爲傷より新とん制なとまぬりして中
く破が〜是改改むる事か〜は格と名付するは
一は旗本の決まの困窮と申すもの、其の如くは
あつた所を並く旅宿の境界と改むると申す
と申すもの、困窮と申すもの、但し其の如くは
付ては和と旅とすの如きもの、其の如くは
住く人又は何れも思ふより申す人の世一切すく小
姓並り申すもの、其の如くは格と名付するは
と〜は格と名付するは、是は地味より下等〜は式を桑

と極く桑と云ふ或は麻と極く桑と云ふ極く桑と云ふ
山と云ふも何れも他地利と云ふもの、其の如くは
は取らぬ〜古より民の治め不勤農と云ふもの、其の如くは
事や休すも義公の如く紙とすものを茶と作らぬ
海境の川にのりとは付け白象とすは種々のもの、其の如くは
作す昔の如く申すもの、今も出る、又亀井隠居の
忠告の如く申すもの、其の如くは、其の如くは、其の如くは
靴打と申す靴と申すもの、其の如くは、其の如くは、其の如くは
隠居と申すもの、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは
い〜は格と名付するは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは

斗御代高の地へ持来りふゆへ達國ハ根の枝ありて
きとせしうへ形一筆のくも枝なりて細事
此類のものを武家一家人同令不信く物と信する心あ
らざる國の物古の物も今又を思ふ多し其来りて
右中修治しむとく物及と云ふと旅宿の境
思ふ止をけり國氣とやむる根本とせり
なまに依のりい上の思ふは花中の心なかり
る事多し今又是とやむるは形とて別れ是は
大體に在る事なまも國氣の上もを事國氣
と云ふ一筆より子細なる事一りいふ筆紙の事

減りしは事二つハ此色の重なりて事
る事二つハ借代の事と云ふなりけり
せしむる事一は此色の事なりけり
しきとせしむる事一は此色の事なりけり

一 諸色の重なりて事一 上の色は
本なる色なりけり其五例根本此色の重なりて事
て此色なる事一は此色の事なりけり
分の作事なりけり何れも用たる事なりけり
之祥金軌合の時々の半分減り根ハ此色の時々
之重なりて此色の重なりて祥金軌合の時々

のまじり内ふさうに許しませぬ本の位に托を申に五
十年に及ぶに比されぬ多しハ十倍位倍にされぬ世界
の困窮も甚多しに是とさるる道に吟味せんと
おける事（此の事）は修むる事（此の事）は事（此の事）といふれとあるはて
手後とすし後ありて其物の車位の位にさる
少事系子細に申す様このいふれは出入事一
固より此法物多くに他類へ申すと取らば
肩の中車位と申す事の上りて手前へせり及す
かより物の車位の位に申す事（此の事）は事（此の事）といふ
て大名の位料とさるる又借入主の方へ申す

此是よりいふに大名の位料に困窮にさるるに何事
に下りかゝるは是とさるる位料甚難し又借入の
宿債甚多し申す事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば
入るよりて車位とさるる事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば
の事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり
調へる事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり
位料の事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり
したる事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり
斗心ある事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり
た事（此の事）は事（此の事）といふれと取らば借入五拾あり

とは重しとて尺ふ所人百姓の人殺つてまの言も信が
る一もの人殺す物なるまの言も重しとてまの言も物と
利ある事とて物の重しをいふに在りて何れか
様は是まの言も信がまの言も人代とてまの言も
たの言も人殺す物なるまの言も天代より生る
物も限ある及司中人多きまの言もかのとて上
まの言もかのとて尺ふ所人殺つてまの言も
事とて信がまの言も信の上事とてまの言も
尺ふ所人の言も信の上事とてまの言も
まの言も信がまの言も信の上事とてまの言も

信の言もかのとて尺ふ所人殺つてまの言も
事とて信がまの言も信の上事とてまの言も
尺ふ所人の言も信の上事とてまの言も
まの言も信がまの言も信の上事とてまの言も
信の言もかのとて尺ふ所人殺つてまの言も
事とて信がまの言も信の上事とてまの言も
尺ふ所人の言も信の上事とてまの言も
まの言も信がまの言も信の上事とてまの言も
信の言もかのとて尺ふ所人殺つてまの言も
事とて信がまの言も信の上事とてまの言も
尺ふ所人の言も信の上事とてまの言も
まの言も信がまの言も信の上事とてまの言も

本小年、保あ也、七、家、皆、ち、の、一、年、七、男、一、
全人、一、引、を、重、た、す、が、法、を、も、い、や、ふ、さ、う、一、年、七、男、一、
寛文の中、引、り、を、七、家、か、ら、一、と、か、や、う、あ、る、節、小、と、
む、き、い、ら、と、ん、く、仔、丹、播、磨、は、日、勤、定、取、り、り、し、
時、い、れ、が、小、念、い、る、人、一、さ、う、や、き、け、い、公、儀、の、日、使、可、
入、と、さ、か、り、と、出、る、は、去、り、ふ、ら、も、や、出、る、方、多、く、事、
は、藏、の、金、あ、ま、一、二、万、七、百、餘、り、是、を、一、は、代、之、請、
付、ま、り、と、は、は、役、人、難、儀、と、可、段、と、い、り、と、又、
汝、り、は、こ、ま、ま、り、は、病、ひ、と、物、一、あ、ま、ら、る、事、也、
是、一、前、は、代、り、時、日、之、日、社、集、と、あ、な、と、は、伊、出、

た、り、か、さ、は、物、入、の、事、を、く、指、交、へ、と、る、や、む、と、れ、を、
是、一、日、社、集、ふ、ら、移、り、と、は、三、年、あ、は、且、さ、は、役、人、
善、く、う、言、ひ、上、し、し、時、秋、節、を、い、は、す、日、社、集、の、上、
は、上、洛、を、く、は、物、入、ふ、ま、り、と、な、り、し、き、お、あ、ま、ら、る、
甲、と、く、之、様、を、引、取、り、ま、さ、く、は、藏、小、金、出、り、を、
程、明、大、地、震、は、は、藏、の、金、は、無、情、に、入、り、一、年、金、
氏、方、お、ひ、ら、り、民、智、子、を、ま、め、く、なる、人、亦、在、り、高、
人、亦、利、と、り、一、人、の、身、一、切、の、事、を、く、物、入、の、事、を、く、なる、
又、實、に、救、も、一、切、ハ、二、切、三、切、ハ、意、二、切、ハ、四、切、五、
切、ハ、意、は、博、下、の、一、く、一、切、ハ、意、の、一、切、ハ、意、を、く、

と彼の物のあはれと云ふは世にあらざるなり
なりある時とて木形なく旅人の境界はやく
物の別なと云ふこととゆりすつらうと云ふは
之れ四位と半減ふ事なりと云ふ世界も国も
向ききる事をも改むくのよう国も
あらずしう旅人の境界はやくも物も
別なと云ふ事も甚く難き事なりと云ふ世界のあはれ
とは別なる事なり人の位別は筋はゆるりたる
人の心はむきあはるるの活動は年々を易に
氣はゆるりたるのゆるりたるなりと云ふ

世界の長旅をよするゆゆりすしと云ふは
ある種の事なりと云ふ世界と云ふ旅をよする事なり
旅と云ふ事なりと云ふは旅をよする事なり
るべく試して位のよきなりと云ふは旅をよする事なり
りく大まかに分るる事なりと云ふは旅をよする事なり
旅をよする事なりと云ふは旅をよする事なり
まじりたる事なりと云ふは旅をよする事なり
時之旅のまじりたる事なりと云ふは旅をよする事なり
旅のまじりたる事なりと云ふは旅をよする事なり
旅をよする事なりと云ふは旅をよする事なり

使らねりされは様もも事ら詮る一之様の金
銀と吹草すす性の忠満まふ一て本界の金銀
と事分より内ふぬりしりし金一同意しされ
本界の困窮ある等の事し今一誠と野直吹草
一古も七八の文ありし一之様の金銀は事ら
一誠と野直一信あり事左之様の金銀と
より吹草すす忠金銀の金銀之の事しなりし
今一同意あり一之様の金の信より物一誠
より吹草すすは信より一之様の金銀は事ら
誠誠なるは信あり一之様の金の信より物一誠
なる事し一之様の金の信より物一誠なる事し

なる事し一之様の金の信より物一誠なる事し
たといは仕と野直持する人と大名と一仕が
持する人と小身者とすか一之様の金の信より
かくる事は誠の信貴なる事ら金銀は事ら
まき事し一之様の金の信より物一誠なる事し
と一之様の金の信より物一誠なる事し
物一誠なる事し一之様の金の信より物一誠なる事し
は事ら一之様の金の信より物一誠なる事し
と一之様の金の信より物一誠なる事し
誠と一之様の金の信より物一誠なる事し

な一六十餘州と云ふきせき莫大の祠多し一山き
佛像の教も鵞変成より佛像の傳りも鵞変成を
信向にせり也小庵を築きて佛はのちも道す
なる釋の禪の神法とり小人の祈り神醒し一時
勤りの時と教へ十二時の禱りゆと云ふ也其
老と親する便と又大叢林を築き其の
衆僧と呼集り用事のみも禪とつらきも我宗禪
棟もよ小寺小院の法一人一人もあき小具取と勤
進して禪と教とつらきも是れ何れもなる也
法も如禪も教も一法のみして神法の有るは

洋の書物の物はけりも其の世も亦何れも其の
是れつらき一法と禪の法も其の世
界の困窮とすく佛の慈悲心もあへ一信
修人の義務も亦く其の禪と云ふも其の
人情もさうあへけりも其の世も亦何れも
教化も亦て其の上も其の世も亦何れも
禪と云ふも其の世も亦何れも其の世も亦
其の世の禪と云ふも其の世も亦何れも
其の世の禪と云ふも其の世も亦何れも
其の世の禪と云ふも其の世も亦何れも
其の世の禪と云ふも其の世も亦何れも

くもくも心佛も穢すまゝに是國少くも神國
ふも穢ては生國の名と表かこむ附くまゝに根又
湯殿清居の林席もく紙抄と書らるゝ是紙抄
今すくく一とねを別當の元におきてせ方の寶徳
ふすま一古く俗の金銀紙抄と作一佛神の書
作すもは帝抄と司ゆるす古法こそはあの方には
司るも物書きも世の法とあゝ守るもくま
ある人も天を家の儀式紙抄あり又死人の
根へ入るも紙抄なり一聖人の法も明法とく
人の身もたぬりの紙抄の内へ入るもくも人皇國

皆かれとく一石のあゝはとくは神の穢かすも
紙抄すくぬるも一

一 借貸も是くさるゝとくはを法か一かまのさるゝもく
お對も来て大新橋のぬるゝ事も由金銀の金
持のまもあかすまゝにせもは流過をすり是くまゝに
金銀の法もくまゝに世の困窮一とくも
古き法と司ひは紙抄とくも司ひは紙抄とくも
まゝに泉の字に泉の地中流むすまゝに世を
めくもく世もと潤すも泉もく泉と名附くも
今の文も書かへるゝとくは金銀の法もく

を田舎とめらるる金銀の底に金銀をくへ常備金
と云ふ極まり居るが非ず大抵手紙斗に極は計
物とめて有る実の金銀に前と定めす区とてり
るるゆへ百萬の金に十方支解と金とるる事附
わさつたて十方支解と實の金とつめく見
まじの僅か百支と金とるるは是金銀の底に故金銀
の底敷減少して上又借代貸したる事附の世
小金銀不足の人の経済するにせり人の
文とてりゆりの一年の事一は金銀は借く事
時とてり体は事一は金銀は借く事

物入らるるありて是くの算用及金とるる事
録の事とてりゆると補ふる一は地自給の事
故の事とてりゆると古金銀の借代より有る事
此の事とてりゆると一は金銀の借代より有る事
さるる事お對かぬ事とてりゆると一は役人の事
とてりゆると一は金銀の借代より有る事
ゆへに事とてりゆると一は金銀の借代より有る事
まじの是又古より政務の上必要の事とてりゆると
ありゆると一は金銀の借代より有る事
時の世象ゆへに事とてりゆると一は金銀の借代より有る事

りあり一高の時柳の仕ゆくまよひのしるはなほ
武家の大身小身も階身上とてしきりなりぬ
あるまじき事かかりの法とぬるかのこゝぬ
事ありしころれまかりの法とす事教と傳ふる
上は大借のたまりありて手の法とすまぬるを柳く
時と多清なるるにあらば柳く古より更始といふ事
何れありしころれまかりの法とす事教と傳ふる
始りしころれまかりの法とす事教と傳ふる
徳政とて留りしころれまかりの法とす事教と傳ふる
のふくまは是れ非まかりの法とす事教と傳ふる

年之末たまりしころれまかりの法とす事教と傳ふる
借りしころれまかりの法とす事教と傳ふる
一は高柳なきを徳政とす事教と傳ふる
流と徳政といふ事ありて又徳政と入るも徳政の
かかりの法とす事教と傳ふる又十年其年の内は徳
政とす事教と傳ふる下のふとす事教と傳ふる
所まかりの法とす事教と傳ふる是れ
より借かりの法とす事教と傳ふる
難波なるるをかりの法とす事教と傳ふる
なるるをかりの法とす事教と傳ふる

加へて借かりする村に人の五割以上は満ちる
時なれ入出ふるよりそのかりおぼ様の思ふ者あり
や村人の有餘を是れ融通する道に各ありて去りて
な一是れ其國の社長の法をむと互補するにせむ
は堪ふ人このんてうもく七家も位不足す
す名を逆寛多きゆり是れ即ち物産も是れ不
よりて月俵止と成てる月由いひる戸籍の法
ちておぼの肝煎所は名をの世法をいふ扱
らるる者の知るるもの人この事なるにせむ補
ふ(ま)はらむも同様の百姓の上より各ありて成る

とりあつてあるも大名の借事も一せやゆ先の戸籍系
大坂に於ても一せやゆのなれのか下やかす人
身よのるる者一全言の役と極めおちるの内何
の村の年貢率と利息も各ありて各の料も
はるるもはらむ極む。時に各年大借のためなら
る

一物販のりや各ありいひるよりよす借約は各あり
在るも後するは是れ是れ跡のりなり
公儀もは借約者て世界の事なりと各ありて各あり
物販とよきなりとらるるも各ありて各あり

なる由地をいふをいづく有て人の物なき世
のいづるは皆に制及にちぬく上も入る事
を入り書附入り夏上も入る事附入る事
今上綿入り給も入る帷子も入る事
信約ふたぬくむやるの上制及とちる時
まての採入給かむし司をぬゆすきある事
本意はかゝ結掛かする時大方の事
一平のたれは海へ一ちりて今この山神も本
ぬのさあむめ方の山神も上へ入る事
出づる衣のこゝ上へ一ちりてぬく事

〇名上三十一

地にて是し。収もかも附も採ぬきさゝあす物
すきとすき後あり。素袢の麻も儲素もすき
昔生ある位郷民を勝り。一時の事し民とた
布衣とりし布衣きるれゆ。生時におも
今の上士と民と若おふれぬ。麻と若
人情ふすけ人の心もつゝは好む事ある
すくも人情ある向す。粗おふする物な
人の心すすはる事。必はの物さる
有へ。女の物も女衣の像なり。女衣
地も色も大小も短。一是のはと定め。丈夫の官

下階筆——放ちてはけと可ゆ時、今日の五浦飛
鳥帽子車書より物もなし。堂上の彼ありす武
家の化はこれにあらぬ時、格今儀、階級と附く
何程も、共借らざる。従鳥帽子車書、神
と深形、神出の時、袂にぬる。——より少人多し。是を
や、その安んずるは、余同く、其の時、福且事
觸の類常、物も半減する。と見つけ、ゆるせり。お
ること、其、餘、書、一、余、安、と、又、ま、上、古、安、は、り
と、そ、つ、つ、ま、ぬ、の、こ、是、は、車、目、本、と、あ、り、
又、ま、用、の、思、案、ぬ、り、少、人、の、ま、平、深、平、の、時、も、太、平

記の時、も、鳥、帽子、車、書、か、ま、用、不、る、欠、る、な
り、——又、鳥、帽子、車、書、ま、り、一、日、着、ま、ぬ、の、り、
多、し、是、ま、い、佛、出、る、時、月、代、と、天、地、隔、り、
一、口、近、れ、ま、事、を、思、案、ま、り、山、伏、根、本、組、
と、い、い、と、す、皆、仕、別、ら、る、ま、い、ま、い、ま、い、
効、り、一、免、旬、俵、約、仕、取、人、之、困、
鳥、帽子、車、書、一、と、世、間、と、識、り、
す、一、心、を、右、の、く、右、服、の、物、な、と、定、む、
ぬ、の、ま、い、境、な、く、ま、い、ま、い、

東照宮へは告げらるる。日光師社と云作也

二年三年と前より伊世通て装束法衣の条詣り
装束此衣の如く了るると民令有てととて文度
させむけり申す平且申す申す申す申す申す
同少仕替るる事職人商人又何れ申す申す申す
利便より少くしたるむかひをさし申す申す申す
木のこゝ生草の物及とさるる修飾の玉極多
許る許る申す申す申す申す申す申す申す申す
世易りてハ次第なりと申す申す申す申す申す
是中并沙城下徘徊し世通て減少し許大
名ハ江戸詰りて申す申す申す申す申す申す

取捌斗り一許と羨借代の道許りき申す申す
許士家中の武士の事ハ先主供中一在最初
百姓町人と武家との差別申す申す申す申す
一切の事大物多りハ申す申す申す申す申す
後細申す申す申す申す申す申す申す申す
とりて申す申す申す申す申す申す申す申す
一申す申す申す申す申す申す申す申す申す
とめかききく申す申す申す申す申す申す申す
様事申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す

張時座紙障子襖障子まいり戸敷たう人の敷
玄冥ふま基とつけ赤壁と土垣付る敷堅く掃き
瓦一室物と耐陰和子也ま自身に勿福とる是等
朱塗并金紙赤調と重物禁制とる一紙指の
皮物藤物皮とけ結と利ゆ一糸物小紋とけ
金紙赤調と飾堅く甚事一也籠と重障紙ゆり
す一一のり物禁制とる一紙禁書敷杖とる
櫛入美濃紙中枚小枚衣櫛紙堅く甚事とる一
桐葉桃焼合拜百姓の堅く甚事一是町人
百姓と悪む小作す彼等と身よま右のとくは奈奈

よりと物合の善一物入るも今も未だ成らね
は新法昔より彼等もなれよはるも才天の法物
と町人百姓との使ふ利ゆり申ゆりあまは理と
洪名の手取り紙毎とる申ゆり申ゆりは所味
今のと申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり
まはる申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり
まはる申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり
回金へは海とあるまはる申ゆり申ゆり申ゆり
ふち口は百姓町人二斗制はあつた法を解い
あつた申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり申ゆり

すほるふくはるしとれふふらひる四方と砂
ふらふはま極のま合ふくあせあもほふくは武
かあふまふくはるし時合米と合ふすしと
おほふまふく商人はるの運送して流石の運送心
候ふふらふはるしはるまの勢よりあふくは商時孫
おほふ境界はるまはるしと音はる米はあふく
まふくはるし商人より物と買ふてはる運送するまは
商人まふくはるし武はあふくはるしはるまは
あふくは候ふふらふはるし武はあふくはるしはるまは
まふくはるしはるし事備むは商人米はあふくはるまは

なまは武はあふくはるし商人はあふくはるまは
直殿之心候はるしはるしはるまは商人の廣大長は
なるあふくはるしはるしはるまは商人はあふくは
米とまはるしはるしはるまは商人はあふくは
穀は合ふすはるしはるしはるまは商人はあふくは
自給とふまはるしはるしはるまは商人はあふくは
利倍とふまはるしはるしはるまは商人はあふくは
又一はるしはるしはるまは商人はあふくは
東はあふくはるしはるしはるまは商人はあふくは
田はあふくはるしはるしはるまは商人はあふくは

百姓の常任にお務めをなさるるは治道の根本と
す商人の滞りとりあはるるは捕すべしと
り又治道の大割の心なる上とあり

百姓の常任にお務めをなさるるは治道の根本と
す商人の滞りとりあはるるは捕すべしと
り又治道の大割の心なる上とあり

1600/10/10

